

<報道発表資料>

カテゴリー: イベント

令和8年8月19日

埼玉県立文書館 令和8年度企画展

「サイタマ・リバーサイド・ストーリー ―絵図にみる利根川・荒川と用水の歴史―」を開催します

県立文書館では、9月19日（土曜日）から12月20日（日曜日）まで、企画展「サイタマ・リバーサイド・ストーリー―絵図にみる利根川・荒川と用水の歴史―」を開催します。

県内に非常に多くの河川が流れ、生活や産業と密接に関わってきた埼玉県。県の面積に比して河川の全長が長く、利根川・荒川という二大水系をはじめ、中川、元荒川、入間川など多くの中小河川が網の目のように流れています。また、関東平野の低地に位置するため、古くから洪水と向き合ってきた歴史があり、治水や利水の工夫が発達してきました。江戸時代からは見沼代用水や葛西用水などの用水路も整備され、農業や都市生活を支えてきた歴史があります。このように、本県は河川と用水が人々の暮らしと深く関わっており、「川の国」と称される理由でもあります。

本展では、そうした本県の特徴である川と用水と人々のつながり、そしてその歴史について、川絵図を中心に概観しようとするものです。

1 展示概要

- (1) 会 期 令和8年9月19日（土曜日）から12月20日（日曜日）まで
- (2) 会 場 県立文書館（さいたま市浦和区高砂4-3-18）
- (3) 主 催 県立文書館
- (4) 休 館 日 毎週月曜日
国民の祝日（9月21日（月曜日）、22日（火曜日）、23日（水曜日）、10月12日（月曜日）、11月3日（火曜日）、11月23日（月曜日））
館内整理日（9月30日（水曜日））
特別整理期間 10月21日（水曜日）～30日（金曜日）
- (5) 開館時間 午前9時から午後5時まで
- (6) 観 覧 料 無料

(7) 交通案内 JR 浦和駅西口下車徒歩 15 分、JR 中浦和駅下車徒歩 18 分

2 展示構成

プロローグ 江戸時代はじめの利根川と荒川のように

かつての利根川は太平洋ではなく、江戸湾（現在の東京湾）に注いでいました。現在のような流路となったのは、数次に渡る瀬替えの結果です。江戸時代のはじめから行われた河川改修工事は利根川東遷事業と呼ばれ、現在の利根川の骨格がつくられました。

また、江戸時代以前の荒川は、江戸湾に流れていた利根川の支川として、現在の元荒川筋を流れていましたが、寛永 6 年（1629）に現在の熊谷市久下付近で締め切られ、和田吉野川に付け替えられて、入間川筋を本流とする流れに変わりました。

【主な展示資料】

武蔵国絵図（堀口家文書 1699） 【複製床貼展示】

第 1 章 利根川東遷事業と葛西用水

利根川東遷事業によって、江戸湾から銚子先へと流れを変えた利根川でしたが、銚子方面への水量調整がうまくいかず、たびたび川妻（茨城県五霞町）～栗橋（久喜市）間で切広げ工事が行われました。また、東遷に伴い武蔵・下総の国境は、古利根川から庄内古川、さらに新たに開削された江戸川へと移りました。

利根川を水源とし、万治 3 年（1660）、関東郡代伊奈忠克によって開発された葛西用水は、県東部を潤す農業用水として誕生しました。その後も新田開発が行われるごとに整備され、見沼代用水とともに、日本三大用水の一つに数えられています。

【主な展示資料】

下総国赤堀川切広之図（田口（栄）家文書 1797） [久喜市指定文化財]

葛西郡領々絵図（田口（栄）家文書 1799） [久喜市指定文化財]

第 2 章 母なる川 荒川

埼玉・山梨・長野県境に位置する甲武信ヶ岳を水源とする荒川は、127 ある支川を集めながら、埼玉県中央と東京都東部を流れています。流域面積は埼玉県のほぼ 3 分の 2 を占め、「母なる川」と呼ばれます。

荒川はその名のとおり「荒ぶる川」でたびたび氾濫し、古来より流域では河川の改修工事を余儀なくされてきました。一方、荒川を利用した舟運により物資が江戸と行き来し、水陸交通の結節点として河岸場や渡船場が各所に設けられました。

【主な展示資料】

北条氏房朱印状（箕田郷堤普請二付）（道祖土家文書 14） [埼玉県指定文化財]

大里郡横見郡村々荒川堰場絵図（根岸家文書 3546） [熊谷市指定文化財]

第3章 見沼代用水 300 年

紀州藩士だった井沢弥惣兵衛為永は、八代将軍徳川吉宗に紀州から呼び寄せられ、新田開発のために江戸に赴任し、灌漑用溜池であった見沼溜井の代替用水路である「見沼代用水」の整備にあたりました。見沼代用水は、現在の行田市付近の利根川から取水され、東縁代用水路は東京都足立区、西縁代用水路は埼玉県川口市に至ります。取水部分である元塚・増塚に始まり、八間堰・十六間堰・柴山の伏越・互葺の掛渡井、さらに見沼代用水東縁及び西縁と芝川を結ぶ総延長約 1,040 メートルの閘門式運河である見沼通船堀（国指定史跡）が存在します。

【主な展示資料】

見沼代用水絵図（瓦葺掛渡井・見沼通船堀）（見沼代用水土地改良区文書 134）

明治年間元塚樋管伏替図（見沼代用水土地改良区文書 100）

エピローグ リバーサイドの暮らし

河川は私たちの暮らしの中で、時に様々な恩恵をもたらします。リバーサイドには川魚料理店が多く存在し、漁労も盛んでした。浦和の名物である「うなぎ」は江戸時代から献上品として知られています。この河川からの恵みがいつまでも続くように見守っていくことが河川とともに暮らす私たち県民のよすがでもあるのです。

【主な展示資料】

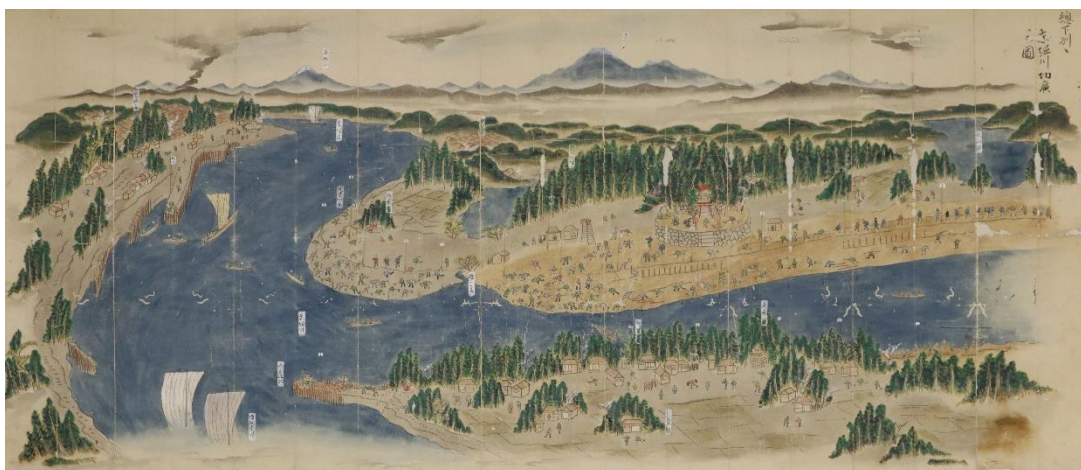
覚（鰻送り二付）（会田家文書 6885） [さいたま市指定文化財]

覚（鯰代金請取）（吉田(実)家文書 1401）

主な展示資料

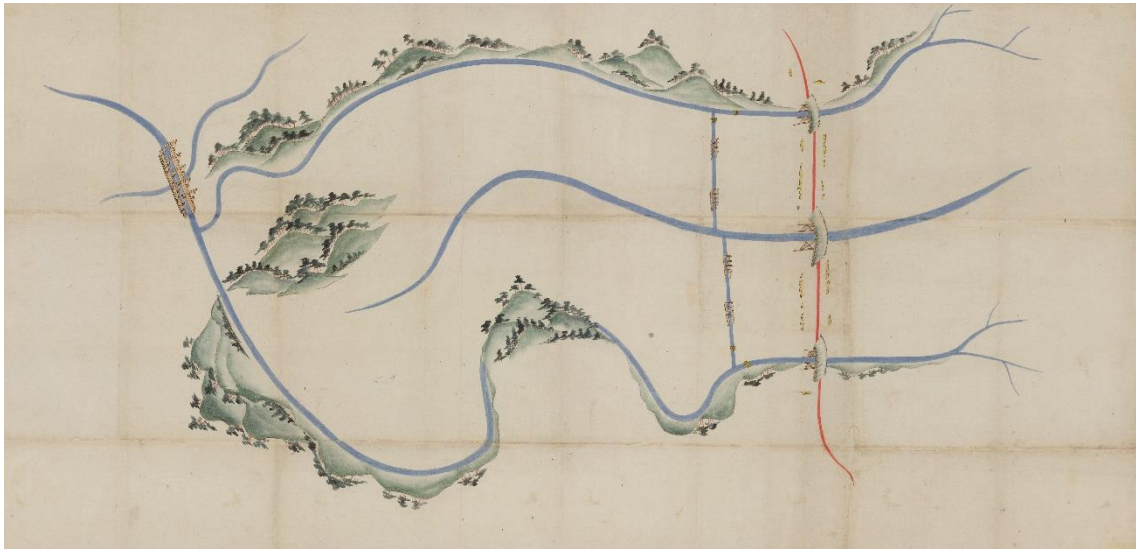


武蔵国絵図(堀口家文書 1699) 【複製床貼展示】



下総国赤堀川切広之図(田口(栄)文書 1797)

[久喜市指定文化財]



見沼代用水絵図(互葺掛渡井・見沼通船堀)(見沼代用水土地改良区文書 134)



明治年間元塚樋管伏替図(見沼代用水土地改良区文書 100)